

1. 評価結果(概要表)

作成日 2007年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	475101143		
法人名	社会福祉法人 大樹		
事業所名	ほくと苑		
所在地 (電話番号)	宮城県仙台市青葉区新坂町6-11 (電話)022-727-1211		
評価機関名	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会		
所在地	仙台市青葉区五橋2丁目12番号		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成9年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.4人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 / <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 / <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋造り 2階建ての 階 ~ 1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(80,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	修に参加する等し 円	おやつ	100 円
	又は1日当たり	1,150 円		

(4) 利用者の概要(10月5日現在)

利用者人数	8 人	男性	0 人	女性	8 人	
要介護1	1 人	要介護2	1 人			
要介護3	2 人	要介護4	4 人			
要介護5	0 人	要支援2	0 人			
年齢	平均	87.8 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関人	千葉クリニック、中嶋病院、仙台北訪問看護ステーション
---------	----------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームでは、入居者の尊厳や地域とのつながりを大切にされたケアが実践されている。また、ホームの運営には入居者の家族だけでなく町内会長や地域包括支援センターなど、地域の関係者にも運営推進会議の委員として関わりを持ってもらい、ホーム側も地域の一員としての運営に努められている。さらに、法人理事長が医師であり、院長を務める病院が協力医療機関となっており、併せて施設長も看護師であることから、入居者や家族にとっては健康管理や緊急時対応という面では大きな安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前評価での課題に対して職員会議で話し合い、馴染みのある物品を配置した生活空間づくり等行い改善されているが、栄養士によるバランスチェック及び市町村への働きかけという点について、改善への検討さがなされている途中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	日頃の実践を振り返りながら職員全員で取り組み、職員会議で話し合って作成されている。自己評価の課題に対しては改善計画を立てた取り組みがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催され、ホームでの課題・取り組みについて報告を行うとともに、家族、町内会長、地域包括支援センター等の委員とホームの運営やケアに関する話し合いがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに対する意見を書きやすい意見書の様式見直しを行い、希望に応じた回答方法を示すなど配慮がなされている。また、意見等があった場合には、職員会議や運営推進会議に諮り対応に向けた話し合いが行われ、その結果に基づいて必要な取り組みが行われている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として町内会に加入するとともに、地域の人々が来訪したり、近隣の保育園の園児が敬老会に来訪したり等、地域との交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取組を期待したい項目

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	入居者一人ひとりの尊厳と地域のつながりを大切にしたいホーム独自の理念が掲げられ、毎月の職員会議の中で振り返りが行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム玄関の見やすいところに掲示し、毎月の職員会議で振り返りを行い職員間の共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入するとともに、地域の人々が遊びに来訪したり、近隣の保育園の園児が敬老会に参加する等、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の実践を振り返りながら職員全員で取り組み、職員会議で話し合っって作成されている。自己評価の課題に対しては改善計画を立てた取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、ホームでの課題・取り組みについて報告を行うとともに、家族、町内会長、地域包括支援センター等の構成委員とホームの運営やケアに関する話し合いがなされている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に対して、ホームの現状や運営課題を理解してもらい相談できる関係作りへの取り組みがなされていない。	○	今後、ホーム運営上の課題や入居者の課題を解決するために、話しをする機会を設けたり、ホーム便りを持参する等して、市担当者との関係作りに努めることが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族来訪時には声かけを行い状況報告が行われている。また、毎月の様子を文書にし、写真、苑便り、献立とともに送付されており、来訪困難な場合には毎月電話と文書で報告されている。金銭管理は原則自己管理とし、金銭管理ができない入居者にはホームが立替払いを行い、毎月の報告時に家族へ請求されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見を書きやすいよう意見記入シートの様式の見直しを行い、回答は希望に応じて電話や掲示する等、その方法に配慮されている。また、意見等があった場合には、職員会議に諮り全員で話し合わせられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に留められているが、止むを得ない場合には引継ぎを1週間程度かけて行ったり、新任職員には2週間かけて研修が行われる等、入居者への影響がないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取組 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1、2回外部研修へ参加するとともに、法人内部での勉強会が行われている。研修へ参加した後は職員会議で報告を行い職員間での共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	宮城県のグループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加する等して他事業所と交流を図り実践に役立てられている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には自宅へ訪問し、本人、家族と話し合い関係作りに努めており、できるだけ本人がストレスを感じないように入居まで支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	入居者が得意分野での力を発揮できるように、日々の生活場面で役割を持ってもらい、職員は利用者から料理や方言、言葉遣い等多くのことを学ぶ関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で本人の意向が汲み取れるよう努力がなされている。把握が困難な入居者の場合は、家族への聞き取り、日々の観察を通じた意向の汲み取りが行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を伺い、関係者の意見を含め職員会議で話し合い介護計画が作成されている。また、作成した介護計画は家族に説明し同意を得て渡されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員会議で介護計画の評価を行い、3ヶ月毎の定期的な見直しを行う他、本人の状態が不安定な場合には随時見直しが行われている。また、見直した介護計画は本人、家族へ説明し同意が得られている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に沿った外出や通院の支援等へ柔軟に対応し、入居者各々の満足度を高めるよう配慮がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族・本人の同意を得て、かかりつけ医が千葉クリニックへ変更されている。通院時はホームとかかりつけ医とで連絡帳の活用による連携がなされ、聞き漏れ等の防止に努めている。通院後は文書や電話で家族へ報告が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等及びかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人を尊重し、言葉掛けが穏やかでさり気ないケアがなされている。また、重度化した場合の指針を定め、入居時に家族、本人へ説明のうえ同意書が作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議で日々の関わりを振り返ると共に、職員へは入職時研修、実習生やボランティアにはオリエンテーション時に説明し、同意書を得て守秘義務の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	普段の関わりを通して本人のペースを把握し、本人なりのペースで過ごせるよう対応がなされている。また、利用者へ声掛けを行い、希望を言えるような支援がされている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
を言えるように支援されている。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら食事の準備や後片付けを行う際の役割を分担し、和やかな雰囲気の中で職員と入居者が一緒に食事を食べながら支援が行われている。また、季節や利用者の好みに応じてメニューを工夫し、食事が提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて入浴できるよう支援が行われている。また、入浴を拒む場合には、場面を変えて声かけを行う等、工夫が図られている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活環境等から本人が得意なことを見出し、日々の生活場面で役割を得て特技を発揮できるよう働きかけが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	近所への買い物や散歩の他、季節に応じて外出先を変えるなど外出の支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	入居者の外出傾向を把握し、日中は施錠せず夜間のみ行われている。また、普段の散歩や外出の際に地域の方と挨拶を交わし、関係づくりの取り組みがなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	マニュアルに基づき役割を分担し、年2回、夜間想定も含めた防災訓練が行われているが、地域住民の参加、協力までには至っていない。消火設備点検や非常食の準備はなされている。	○	災害時に地域の人々に協力が得られるよう日頃から話し合いを行い一緒に訓練を行うなどの取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行っており、食事や水分摂取量の記録表も作成されている。楽しく食べてもらうことに重点を置きながら、体力の低下した利用者には内容やカロリーに工夫と配慮がされたメニューが作成されている。しかし、栄養士等の専門的な観点からのアドバイスは受けていない。	○	健康状態等、様々な要因で一人ひとりに必要とされる摂取量や栄養素が異なるため、少なくとも3ヶ月に1回は栄養に関する専門的な立場から献立のチェックやアドバイスを受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るさや温度調節が適切に行われており、季節感を感じられる装飾や馴染みのものが配置され居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と話し合い馴染みの物が持ち込まれている。写真や装飾品が置かれ、居心地よい居室作りに配慮されている。		